



八田原ダム流域では、低気圧や前線の影響により令和6年11月1日の朝から雨が降り始め、2日の昼過ぎにかけて雨が降り続き、降り始めから2日までの流域平均累加雨量は150.4mmを記録しました。

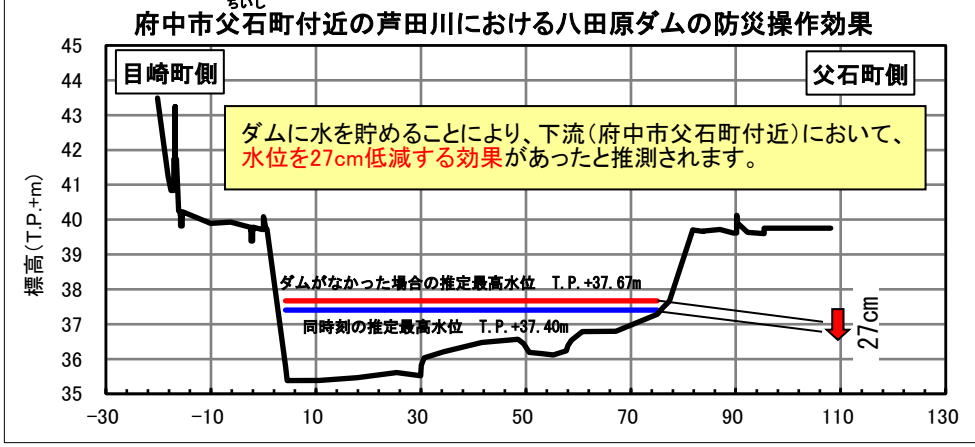
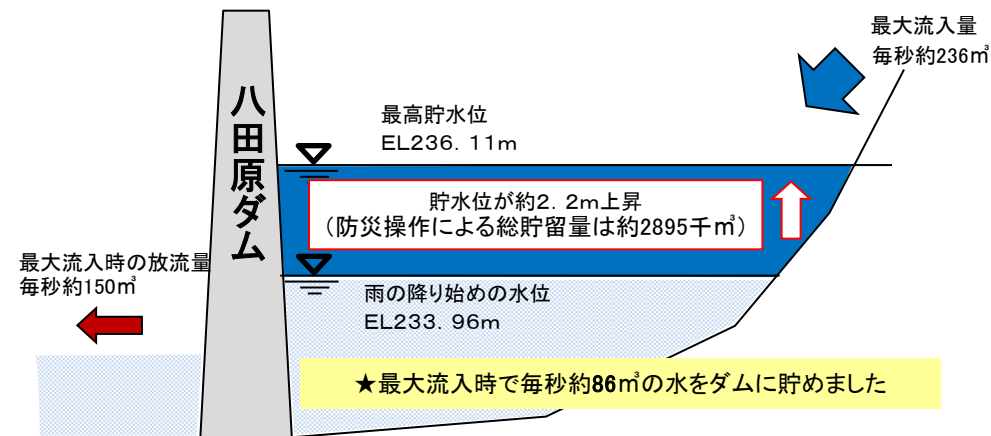
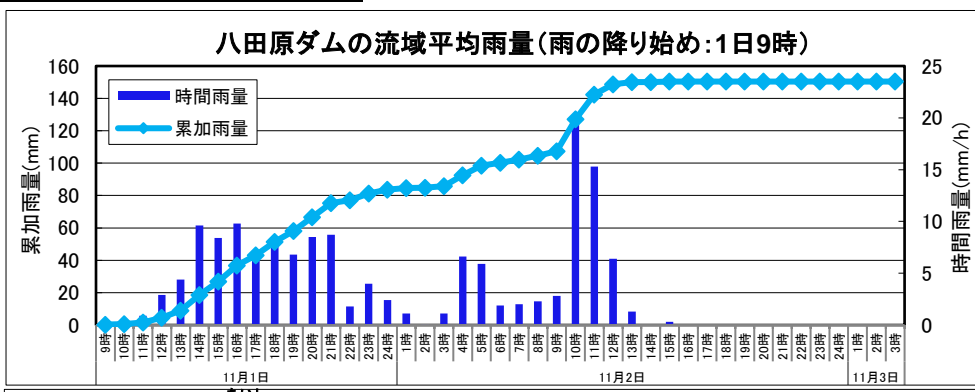
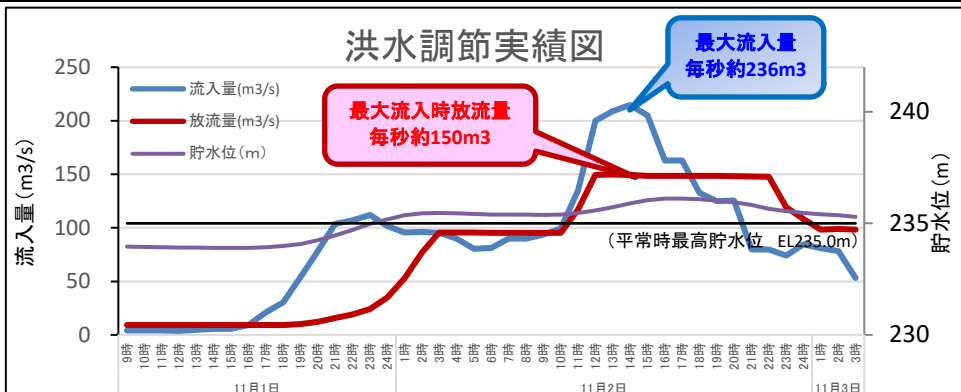
八田原ダムでは、ダムへ入ってきた水の量が最大で毎秒約236m<sup>3</sup>に達しました。

この洪水において、八田原ダムにおいては防災操作<sup>\*</sup>を行いました。このうち、最大流入時で毎秒約86m<sup>3</sup>の水をダムに貯め込みました。

この結果、府中市父石町付近の芦田川の水位を27cm低減する効果があったと推測され、はん濫リスクの低減に寄与しました。

<sup>\*</sup>『防災操作』とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

八田原ダム位置図



<sup>\*</sup>※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。